

アルカラ門 Puerta de Alcalá

マドリッドの町はいつも門や塀、城壁で囲まれ閉ざされていた。アラブ時代の城壁はサグラ門とラ・ベガ門の跡が残っているだけである。カトリック教の王家の時代になって、2番目の城壁がつくられ、モーロ、セラダ、グアダラハラ、バルナード門がつくられた。フェリッペ2世は首都をマドリッドに移してから、城壁の町を広げることにしたため、サントドミンゴ、サン・マルティン、アントン・マルティンなどの門が作られた。マドリッドの真の建造者といわれるフェリッペ4世になってから城壁が建てられ、後の時代でアトーチャのトレド門、コンデ・ドゥッケ、サンタ・バルバラ門が立てられた。その中でもアルカラ門というマドリッドの町の重要な象徴を忘れてはいけない。



オドネル通りからグランピア周辺あるいは天文博物館の近くへ出るトンネルを出ると、荘厳で力強い、美しいクラシック調の建築物に出会う。マドリッドっ子生来のバイタリティとホスピタリティを象徴するモニュメントとあってよい。



アルカラ門の近くに、最初の闘牛場ができ、1874年に現在の体育館（パラシオ・デ・デポルテ）の敷地に移設された。下のゲドンの作品（1854年）を見ると、19世紀のアルカラ闘牛場とマドリッドの都市風景の様子がよくわかる。



エル・レティーロ公園 Parque de El Retiro

マドリッド市内でエル・レティーロ公園のように、平日もそうだが、特に週末に人々が集まり憩う場所はないと思われる。散歩したり、休んだり、世界中の様々な音楽を聞いたりしている人もいれば、人形劇を見たり、ローカル劇団を楽しんだり、写真を取り合っているグループもあれば、公園にある池でボートに乗ったりと、実に様々な光景がみられ、ヨーロッパの主要都市の街中にあるとは思えないほどの、自然な環境に囲まれてくつろげる場所である。単なる公園以上の役割を果たしているといえる。

エル・レティーロ El Retiro
マドリッドを代表する公園として世界的に有名。マドリッドの中心にある広大な面積を持つ公園で、カゾン・デ・プエン・レティーロと共に、フェリッペ4世治世に建てられた王室離宮で現在も残っているものである。レティーロは世界的なスペイン黄金時代の荘厳さ、芸術の偉大さを象徴する建物である。



現在のエル・レティーロ公園の姿になったのはもっと最近になってからである。カルロス3世の命により、同公園へ一般市民が自由に入ることができるようになったが、それでも王室の特権は維持されていた。1868年の革命以降、レティーロ公園が市の所有物となってから、いろいろな工事が行われ、現在の公園の姿になった。

レティーロ公園の大池

El estanque grande
独立公園の門から長い道を歩くと、公園にある大きな池にたどりつく。この大きな池はエル・レティーロ公園が元王室占有の公園だったことを感じさせるような荘厳な雰囲気づくりに一役かかっているようだ。



バラ園 La Rosaleda

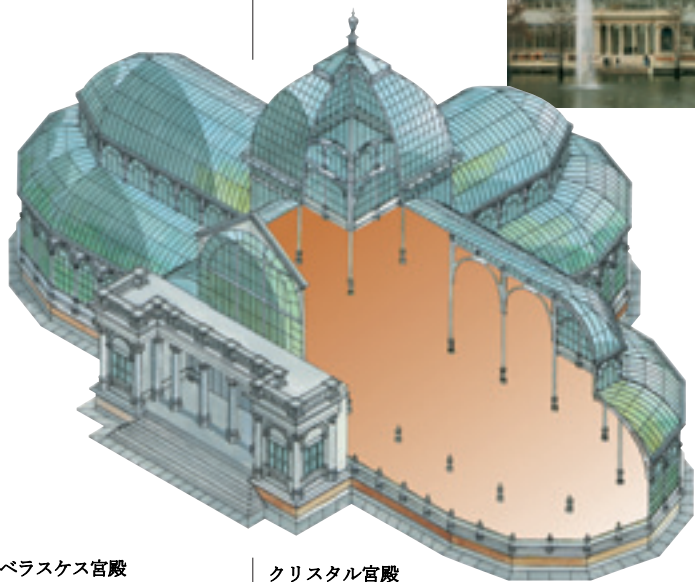
レティーロ公園にはバラを中心としたたくさんの花が植えてある。園芸家 Winthuysen の設計による同心円状のデザインがまだに保たれている。



エル・レティーロ公園にある宮殿 Los palacios del parque de El Retiro



池に囲まれた金属とガラス張りの宮殿「クリスタル宮殿」はヨーロッパの多くの町の建築モデルとなった。この建物は最初、1887年にフィリピンで開催された博覧会のための温室としてリカルド・ベラスケスの手により建築されたものであったが、同博覧会の後、「ムセオ・デ・ウルトラマール」（海外博物館）が設けられた。クリスタル宮殿の近くに、同じくベラスケスの作品として、この建築家の名前をつけた「ベラスケス宮殿」がある。これも1883年に「工業・芸術博覧会」のために建築されたものである。



ベラスケス宮殿

Palacio de Velázquez

リカルド・ベラスケスはこの宮殿を設計し、自身の名前がつけられた。正面にライオン2頭が構え、2色のレンガとダニエル・スロアガ作のタイルを使った古典的で荘厳な造りとなっている。クリスタル宮殿、ベラスケス宮殿はカサ・デ・パカスと同様、一時的に展覧会の会場として利用されている。

クリスタル宮殿

El palacio de Cristal

1887年にコロニアル展覧会の間、温室として利用されるために建設された。その百年後、教育文化省が部品を組み合わせて作ったかのようなこの建築物の改修工事に取りかかり、文化省により補修工事がなされ、ガラスの膨張を緩和し、水密性を保証するためにシリコンを使ったカーブクリスタルが用いられた。スロアガの作品である外装のタイルの修復も補修に含まれていた。また、大きなドームのような構造をしていることから、「ボンボン入れ」という愛称で呼ばれている。



エル・レティーロ公園周辺 En torno al parque de El Retiro

ウルグアイ通りに出てエル・レティーロ公園から立ち去る前に、アルフォンソ12世通りとクエスタ・デ・モヤノ通りの合流点にあるセリーリョ・サン・プラスと呼ばれるスポットに立ち寄るのもおもしろいだろう。ここには同名の聖人を厚く崇拝していた行者がいたといわれており、今はスペインのネオクラシック建築を代表する天文博物館がある。その近くのアルフォンソ12世通りとインファンタ・イサベル通りの交差点には1875年にアルフォンソ12世がオープンした人種博物館がある。



天文博物館

El Observatorio Astronómico

1845年にバスクアルとコルメルはファン・デ・ビリャヌエバの設計図を下に、原図通りの完全にネオクラシック様式の建物をつくった。四隅に塔がある四角形の建物で、グラナイトのイオニア式柱が16本ある円堂があり、原図ではオープンな構造であるが、今日ではガラス張りになっている。各種天文観測機器のコレクションがある。



国立人類博物館

Museo Nacional de Antropología

博物館の内部は世界の各大陸の原始文化にまつわる展示品があり、創設者ドクター・ベラスコの遺産である人種学・人類学の大図書室がある。

▶▶▶ 開館時間

天文博物館

Observatorio Astronómico

月～木（祝日は除く）
午前9時～午後1時

入館料：無料。

国立人類学博物館

Museo nacional de Antropología

電話：91 530 64 18

火～土：午前10時～午後7時半
日：午前10時～午後2時

一般入館料：2.40ユーロ

マドリード市民は土曜日午後と日曜日は入館料無料。

www.mnantropologia.mcu.es